

説 教

聖日礼拝

北浜チャーチ

黒田禎一郎

2018年1月21日（日）

主 題：「あなたの選択が鍵です」

—視点をどこに—

テキスト：ヘブル人への手紙11章29－31節

はじめに

- 先週末は、大雪の中で、「大学入試センター試験」が行われました。自分の目指す大学はどこかを定めた学生たちが、真剣に共通試験に臨んでいました。大雪のため電車が止まり、急遽パトカーが受験生を試験会場へ運んだという、美しい話もありました。どの受験生も真剣で、進路の選択と結果によって、将来が決まってしまうからです。
- 私たちは日々の生活において、選択と決断をしなければなりません。前回も申し上げたように、毎日起こってくる小さなことから、重大な決断にいたるまで様々であります。例えば、進路の選択、配偶者の選択などは人生の方向性を決める大切なものです。決断を間違えるならば、大変なことにならないとも限りません。
- 今日のテキストで、その選択と決断に登場するのはイスラエルの民です。彼らはエジプトを出て40年間の荒野生活において、多くの場合、選択を誤りました。彼らの不信仰がその理由でした。しかし聖書は、彼らが正しい選択と決断をしたことも、記録しています。
- ヘブル人への手紙の著者は、今日のテキストで3人の人を取り上げましたので、考えてみたいと思います。

大切なポイント**1 イスラエルの指導者モーセ**

- 11:29 信仰によって、彼らは、かわいた陸地を行くのと同様に紅海を渡りました。エジプト人は、同じようにしようとしたが、のみこまれてしまいました。
- イスラエルの民はエジプトを出て、神に導かれて南下しました。エジプトの王ファラオは、彼らがエジプトを出ることは許しましたが、本音では許していませんでした。そこで、イスラエルの民の後を戦車や騎兵を遣わし、追いかけてきました。
- エジプト軍に追われたイスラエルの民（その数約200万人）の眼前にあったのは、紅海でした。彼らは武器や戦車を持っていただけではありませんから、絶対絶命の危機に遭遇しました。そこでイスラエルの民は非常に恐れ、神に向かって叫び、モーセに対してこう言いました。 **出エジプト記**
- 14:11 そしてモーセに言った。「エジプトには墓がないので、あなたは私たちを連れて来て、この荒野で、死なせるのですか。私たちをエジプトから連れ出したりして、

いったい何ということをお私たちにしてくれたのです。

14:12 私たちがエジプトであなたに言ったことは、こうではありませんでしたか。『私たちのことはかまわないで、私たちがエジプトに仕えさせてください。』事実、エジプトに仕えるほうがこの荒野で死ぬよりも私たちには良かったのです。」

- ・しかし、神はモーセを通して奇蹟を行われました。モーセは神が言われた通り、杖を紅海の上に伸ばすと、主は一晩中強い東風を吹かせて、紅海の水が流れないようにし、水を二つに分け、紅海のある所を陸地にしてしまいました。つまり水は二つに分かれて、両方に高く盛り上がりました。
- ・その陸地になった所をイスラエルの民は歩いて渡りました。追いかけてきたエジプトの戦車や騎兵は、そこに入るのですが、ぬかるみで混乱してしまいました。モーセは神が仰せられたように、手を紅海の方へ差し伸ばすと、水が元どおりになり、エジプトの軍勢はその水の中で全滅してしまいました。
- ・この出来事は、それを体験するまでは、イスラエルの民には恐れがありました。しかしモーセが語った神の約束の言葉を信じ、モーセの言うことに聞き従った時に、イスラエルの民はすばらしい経験をすることができました。モーセはこう言いました。

出エジプト 14章

14:13 それでモーセは民に言った。「恐れてはいけない。しっかり立って、きょう、あなたがたのために行なわれる主の救いを見なさい。あなたがたは、きょう見るエジプト人をもはや永久に見ることはできない。

14:14 主があなたがたのために戦われる。あなたがたは黙っていなければならない。」

2. モーセの後継者ヨシュア

- ・11:30 信仰によって、人々が七日の間エリコの城の周囲を回ると、その城壁はくずれ落ちました。
- ・イスラエルの民は、40年間、荒野で旅を続けました。それからモーセの後継者ヨシュアに率いられて約束の地に入ることになりました。そこで最初にしなければならないことは、エリコの町を攻略することでした。考古学的調査によれば、エリコの町は世界最古の都市であります。この都市にはかなり強固な城壁が巡らされていて、考古学の発掘によると、城壁が崩壊していました。
- ・聖書によれば、イスラエル人はまず先頭に7人の祭司が雄羊の角笛を鳴らしながら進み、それに続いて十戒の箱を担ぐ祭司たちが続きました。その後、イスラエルの民が続き、その先頭と最後尾には武装した者たちがおりました。
- ・彼らは六日間、エリコの町の周りを一回ずつ回りました。最後の七日目には、夜明け共に起き、エリコの町を七回周りました。そして7人の祭司が角笛をひときわ大きく鳴らすと、ときを声を一斉に上げました。すると城壁は崩れ落ちたので、町になだれ込み攻め取りました。
- ・これを見て分かることは、難攻不落のエリコの町は武力によるのではなく、「信仰によっ

て」崩れたのでした。つまり神が仰せになった通りにすると、城壁は崩れ落ち町を攻略することができたのでした。それは勿論、神が成された奇跡にわがでした。その時、エリコの町で何が起こったのでしょうか。

3. 遊女ラハブに臨んだ神のご計画

11:31 信仰によって、遊女ラハブは、偵察に来た人たちを穏やかに受け入れたので、不従順な人たちといっしょに滅びることを免れました。

- ・イスラエルの民がエリコの町を攻略した時、不思議にも、遊女ラハブだけは助かりました。エリコ中の人々が皆殺しにされた時、なぜ彼女と彼女の一族だけが、助かったのでしょうか。遊女とは売春婦のことです。

1) ラハブは真の神を信じていた

- ・ラハブはかつて売春婦でありましたが、真の神を信じていました。聖書はその詳細について記していませんが、推測では遊女としての身で、真の神を聞くチャンスがあったと思われる。
- ・ところで、ヨシュアはエリコの町を探るために、二人の者を偵察隊としてエリコに遣わしました。その時、彼らはラハブの家に泊まりました。どうして彼らは、ラハブの家に泊まったかについては分かりませんが、あるいは彼女が真の神を信じていることが分かっていたかも知れません。
- ・ところが、その情報が王の耳に入りました。王は官憲をラハブの家へ差し向け、二人の引き渡しを要求しました。彼女がかくまっていることが判明すれば、彼女の身にどんな危害が加えられるかは明らかでした。しかし彼女は一身にかけて、彼らをかきまい、かれらを逃がしてあげました。彼女は彼らを逃がしてあげる前に、次のように言いました。
- ・2:9 その人たちに言った。「主がこの地をあなたがたに与えておられること、私たちはあなたがたのことで恐怖に襲われており、この地の住民もみな、あなたがたのことで震えおののいていることを、私は知っています。
- 2:10 あなたがたがエジプトから出て来られたとき、主があなたがたの前で、葦の海の水をからされたこと、また、あなたがたがヨルダン川の向こう側にいたエモリ人のふたりの王シホンとオグにされたこと、彼らを聖絶したことを、私たちは聞いているからです。
- 2:11 私たちは、それを聞いたとき、あなたがたのために、心がしなえて、もうだれにも、勇気がなくなってしまいました。あなたがたの神、主は、上は天、下は地において神であられるからです。
- ・そして彼女はさらにこう言いました。
- 2:12 どうか、私あなたがたに真実を尽くしたように、あなたがたもまた私の父の家に真実を尽くすと、今、主にかけて私に誓ってください。そして、私に確かな証拠を下さい。
- 2:13 私の父、母、兄弟、姉妹、また、すべて彼らに属する者を生かし、私たちのいのちを死から救い出してください。」
- ・それを受けて二人の偵察は、こう言いました。

2:14 その人たちは、彼女に言った。「あなたがたが、私たちのこのことをしゃべらなければ、私たちはいのちにかけて誓おう。主が私たちにこの地を与えてくださるとき、私たちはあなたに真実と誠実を尽くそう。」

- ヘブル人への手紙の著者は、そのことを次のように記しています。
11:31 信仰によって、遊女ラハブは、偵察に来た人たちを穏やかに受け入れたので、不従順な人たちといっしょに滅びることを免れました。
- 愛する皆さん！ラハブの場合、イスラエルの偵察隊がやって来た時、そこには二つの道がありました。彼らを拒む道と、彼らを受け入れる道でした。自分の目先の安泰を考えれば、拒むほうが簡単であり、また楽でもありました。しかしそこには、彼女の心に深い痛みが残ってしまいます。
- もう一つの道には、かなりの危険が伴います。もしもそれが発覚した場合、彼女はエリコの町の敵とみなされ、裁かれなければなりません。場合によっては、死刑にならないとも限りません。しかし彼女は真の神を知った以上、真の神を信じている人々と行動を共にする道を選びました。重要な選択です。
- 危険が伴う事を承知の上で、彼女は後者（受け入れる道）を選びました。

2) ラハブへの神のご計画

- ラハブは後にユダ族のサルモンと結婚し、ルツの夫ボアズの母となった人です。この人の子孫から救い主イエス・キリストがお生まれになりました。そのような人を、なぜ遊女と呼ぶのでしょうか。それはおそらく彼女は、以前は遊女でしたが、今は真の神を信じる人であったからです。
- 皆さん。真の神を信じるまでは、そういう職業の人、いかがわしい生活をしていた人もいたはずでは、そういう仕事をしていない人と、そういう生活をしていなかった人とは、どれほどの違いがあるのでしょうか。人間の目から見れば、大きく見えるかも知れません。しかし神の目から見れば、同じなのです。どれもこれも罪人です。
【例 話】日本は今、「マラソン・ブーム」
- 昨今、「マラソン」は大流行で各地で行われていますが、マラソンまでは行かなくても、「ランニング」をする人々は多数います。多くの人は健康保持と増進、ストレス解消、そしてハーフマラソンやフルマラソンのためのトレーニングをしています。目的は様々ですが、日本のランニング人口は約 1000 万人とされています。
- 毎年 11 月には、大阪でも恒例の「大阪マラソン大会」が開かれています。大阪マラソンに参加する人数は、約 3 万人だそうです。じつに多数の人たちが、「なにわの町」を元気よく走る姿は感動を覚えます。
- そのランナーのマラソン風景を、最近ではヘリコプターなどから生中継で流されています。少し、考えてみてください。地上で走るランナーは、背丈が高い人、あるいは中ぐらいの人、小柄の人とさまざまですね。しかし空から見れば、ランナーは豆粒のような存在で、大小の差は大きくありません。

- ・人間同士で背が高い、そうではないと言って比較しても、自分はその人のようないかがわしい生活を送ってはいないと言って誇ったとしても、神の目から見れば、どれもこれも罪ある人間で違いはありません。
- ・人間はほかの人と自分を比較し、優越感にひたったり、劣等感になやまされたりします。神の前においては、そんなことはどうでもいいことです。唯一の真の神を信じているかどうか大切なことです。それこそ「信仰によって」生きることです。
- ・それには人間的に見て、危険が伴うことかも知れません。しかし神は決して裏切るようなお方ではありません。約束されたとおりのことをしてください。その約束は聖書にあります。」 **ヘブル人への手紙**

11:1 「信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」

- ・現代訳聖書は次のようです。

11:1 「信仰とは、将来に起こることを確かなものとしてつかむ手であり、まだ見ていないものの確実な証拠を見る目である。」

聖書は次のように勧めています。

11:6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。

- ・このように、モーセ、ヨシュア、遊女ラハブは、「信仰によって」歩きました。私たちも今週、3人の勇者のように「信仰によって」歩みたいと願います。
- ・では、そうすれば「信仰によって」歩めるでしょうか？
⇒日々、主である方との「交わり」(ディポーション) に鍵がある。
- ・いかがでしょうか。私たちは日々、主との交わりをどの程度持っているでしょうか。それは量でしょうか？ あるいは質でしょうか？
今日、私は主にあつてこのような「励まし」、「力」、「勇気」、「心の癒し」等をいただいたかどうか、鍵なのです。
- ・今、私たちは主の御前に出ようではありませんか。

ま と め

主 題：「あなたの選択が鍵です」

—視点をどこに—

- ・信仰の勇者3人の共通項は、「信仰によって」歩んでことでした。不安、危険、リスクはありましたが、全地を創られた神を信じて歩きました。
- ・私たちは大切な選択と決断をするために、何が大切でしょうか。
 1. 神を信頼すること
 2. 神のみことばを信頼すること

*God bless you!